様々な「壁」を超えて

山形市立蔵王第一中学校　三年　前田　維禾

私は以前、障害を持った方に対する差別をニュースで見た。その時は、ただ「ひどいな」という軽い気持ちくらいしか思っていなかったが、その考えが大きく変わる出来事が起きた。

私は、障害のある方について詳しく知りたいと思っており、妹に誘われたことをきっかけに障害を持った方とふれ合うボランティアに参加した。

実際にボランティアにをする上で、最初は「どんな人達がいるのだろう」と楽しみで、ワクワクしていた。体験してみると、みんな優しく迎入れてくれて緊張がほどけた。また、一人の方が「よろしくね。」と言って下さり、心が暖かくなり、やる気が出た。しかし、一緒に生活してみると、上手くいかないことばかりだった。私は、仲良くなりたいと思い、「何作っているの」など、積極的に質問し、コミュニケーションをとった。しかし、私の顔は見てくれるものの、返事をしてくれなくて、無視されてしまった。私は、障害を持っている方との心の壁があると感じ、どんどん嫌な気持ちになり、イライラしてきた。そんなときに、ヘルパーさんが、「耳でしっかり聞いているけれど、それを言葉に表すことが難しい」と言った。その言葉を聞いて、私は、イライラが晴れて、言葉では、伝わらないことがあるけれど、心は繋がっているのだと考えることができた。そこからは、一人一人に笑顔で振る舞ったり、手でサインをしたりしながらコミュニケーションをとった。私は、障害を持っている方との大きな壁を越えられた気がして、すごく嬉しかったし、達成感を得ることができた。

今回は直接、ボランティアという形で、障害のある方のサポートをしたが、他に私ができることはないかと考えた。そんなときに、ヘルパーさんから、「みなさんからもらったお金は、す

ごく役立っている」という話を聞き、そのうちの一つである「イエローレシート」という存在を知った。それは、毎月十一日にイオンモールで、買い物をした際に黄色いレシートをもらい、それを箱に投函するというものだった。それに協力することによって、レシートの金額の一部が施設におくられ、備品の購入に役立てられているそうだ。私は「イエローレシート」について知らなかったが、すぐに協力することができると思うので買い物をする際に、意識していきたい。

「イエローレシート」以外にも、身近でできることとして、赤い羽根募金があり、これも障害を持つ方の支援や、災害などの支援に役立っているので、積極的に協力したいと思った。

私は、これらの体験から、障害の「ある」と「ない」とでは、一緒に過ごしていくなどをする上で、難しいことがあるかもしれないが、それらに関わらず、言葉や心の壁を越えて、それぞれの個性を尊重していきたい。また、「誰が偉くて、誰がダメ」というのはなく、みんな同じ人間で、大切な命があるので、差別をせず、自分にできることを見つけて、積極的なサポートや「イエローレシート」、「赤い羽根募金」などのボランティアを心がけていきたい。

私はこれから、色々な人と出会っても「壁」を超え、誰もが平等に過ごせる、居心地の良い場所となるような環境づくりをしていきたいと思う。